

南科緊急時対策支援専門システムが大賞受賞

効果的に災害を予防し、危機管理効率を高めるため、南科管理局と労工安全衛生研究所は共同で「緊急時対策支援専門システム」を開発し、南科における全ての緊急危機管理作業をインフォメーション化した。つまり、南科では園区内の全ての企業の緊急連絡資料、災害救急器材物資及び化学品数等の情報を一括して当システムによって管理している。

万が一災害が発生した場合、園区内の企業は当システムを通じて、事故災害をオンラインで通報し、南科管理局は直ちに状況を把握することができる。また、災害予測モジュールを通して各関係機関と十分な連携をとり、園区の連合防災組織、園区消防隊を出動させるべきか、または園区外の機関に通報し、救援を求め、災害を最小限に抑えるべきか等の問題について有効かつ正確な判断を下すことができる。

更にこのシステムは全国で初めて科学園区専用設計された緊急危機管理システムであり、数々の模擬演習を重ね、極めて優れた成果が証明されている。この為、2006年7月20日行政院は南科管理局に対し「安全衛生傑出研究開発成果賞」を授与した。現在、当システムは園区内の安全防護の面で重要な役割を担っている。

「結核」ゼロの職場環境構築、2006年伝染病予防優秀機関賞受賞

結核は毎年平均15,000名の患者が報告される台湾で最も深刻な伝染病であり、この為、各民間団体において積極的に結核ゼロの健康な環境の構築が進められている。更に衛生署疾病管理局は2006年から大量の人力及び物資を投入し、全国各地で全面的な結核治療計画(DOTS)を実施している。これは「薬を患者のもとに届け、服用を見とどける」というサービスであり、現在、全国の72%の地域で行われている。南科連合診療所は1999年11月に南科に設立されて以来、通常の医療サービスを行うだけでなく積極的に従業員の健康管理を行っている。この為、2007年3月1日、衛生署から2006年伝染病予防優秀機関賞が贈られた。南科連合診療所では毎年約30名の肺結核患者が報告されるが、診療所では治療を行い、肺結核の伝染を阻止すると同時に、直ちに企業側に連絡し肺結核が南科内に広がらないよう対応措置を講じている。これは企業コストの節約に極めて大きな役割を果たしている。



台南園区資源リサイクルセンター

台南園区資源リサイクルセンターが2006年傑出環境保全工事賞受賞

南科の台南園区資源リサイクルセンターが中華民国環境工程学会の2006年傑出環境保全工事賞選考に参加し、台湾大学環境工程研究所の楊萬發教授等5名の委員の南科視察を経て、2006年8月25日、傑出環境保全工事賞を受賞した。環境工程学会から賞牌が贈られると共に特集号を製作され、南科の環境安全に対する努力が奨励された。

資源開発センターでは焼却炉操作、多元化供給施設、全工場において全てDCSリモコン設計を採用し、また、試験運転により、99.99%以上の有害廃棄物除去効率が確認され、環境保護法規の基準を十分に満たすものとして審査員から高い評価を得た。

現在、資源リサイクルセンターは既にISO14001環境管理システム国際検証を取得し、台南園区の環境の質は更に向上している。